

參議院議員

上田きよしレポート

令和二年、新年あけましておめでとうございます。昨年は、天皇陛下の退位礼正殿の儀と皇太子殿長として約一五〇名の方々と至近距離で陪席する機会をいただきました。まさに、平成から令和に移る歴史的な場面でした。

8月末には4期目の任期満了となり、後事を大野元裕氏に託しました。私も応援団長に就任し、しっかり応援させていただきました。激戦を制し、大野新知事が誕生しました。人格識見がすぐれ、実務能力も高く即戦力として大活躍中です。

さて、4期16年の「上田県政16年の検証」はすでにご送付させていただきました。上田県政の特色は市町村や企業・団体・ボランティアの皆さんとの協働でした。県庄アのいう枠を超えて、大きなムーブメントをつくることで、全国屈指の成長を実現しました。改めて御礼申し上げます。

また、参議院埼玉選挙区の補欠選挙があり、多くの皆さんからの推薦を受け、再び国政に挑戦する



1日10時間連続駅立ちの贅威の体力

No.78号
発行 清友会
市東弁財3-13-6 207
- 048-466-7566
× 048-463-6138
ホームページアドレス
<http://ueda-kiyoshi.com/>
mail ueda@aya.or.jp

埼玉県知事から
参議院議員へ

率約86%で106万対16万票の大差で勝利することができました。まさに16年ぶりの国政復帰となりました。現在、完全無所属ですが、これまでの政治経験や人脈を活かし、埼玉県のバックアップと国政の困難な課題を解決するため、最良のポジションを模索しています。

改めて平成の30年を総括しますと、日本のゆるやかな衰退の始まりといえるかも知れません。平成元年に株式時価総額の世界上位50社のうち日本は32社を占めて、かつ上位10社に7社いました。現在トヨタ自動車の26位のみという現実です。GDPの伸びも先進国中、最低クラスです。国民所得200万以下の層が3倍増加しました。富の再配分が不可欠です。埼玉県は元気ですが、地方の衰退に歯止めがかかりていません。

最低クラスです。国民所得200万以下の層が3倍増加しました。富の再配分が不可欠です。埼玉県は元気ですが、地方の衰退に歯止めがかかっていません。

今こそ、日本の現実をデータベースでしつかり分析しなければなりません。その上で、目標設定と検証可能な体制づくりなどを再構築すべきです。埼玉県の成功モデルを全国に発信します。

行政を出す成果

私は平成15年9月2日埼玉県知事に就任した。前知事辞職に伴う急な選挙だったといふこともあり、マニフェストは短期間に作り上げたので体系的なものではなかった。制約された時間ではあったが、田園と都市両方の魅力を併せ持つ埼玉県像をイメージし、安心安全という切り口から行政を見直し、また、ひとりとチャンスという視点から肉付けしていった。

最初に県職員に訴えたのは県庁を「優れた経営体とすること」そして「最大のサービス産業とすること」だ。私の意図は、国・地方を問わず、役所の二つの構造的欠陥を基本的に正すことにあった。その二つとは、①競争原理が働かない②赤字が苦にならないことである。

「競争原理が働かない」については、公務員は法令遵守と手続きが適正であれば結果については免罪符が与えられると思う傾向にある。結果は二の次で、政策を打ち込んで、その結果どうなったのかを追いかける人はまずいない。一方、第二県庁のようなものがあればどちらがよりスピードイーに、安く手続きしてくれるか競争原理が働くはずだ。そこで私は競争原理を働かせるため、47都道府県ごとのランキング、あるいは10年間、20年間のトレンドなどを図表化させ、幹部に「事実」を知つてもらつた。幹部人事は原則2年であるため、対前年度の数字しか目に入ら

ず、少し良くなつた悪くなつたという程度の認識しか持つていなかつた。幹部職員の研修の際、私は三つの目をもつようといった。着実に仕事をこなす「虫の目」、そして上空から現状を見る「鳥の目」、さらに潮流を読む「魚の目」が必要と強調した。

例えば高校生の中退率を全国順位で見ると平成16年度は大阪府に続いてワースト2位であることなどは、関係者が初めて知ることだった。その後、改善策を展開し、平成29年度には良い方から8位となつた。刑法犯認知件数についても、昭和60年当時では6万件だったものが平成16年には約18万件となつた。そこで、民間のパトロール隊「わがまち防犯隊」を当初の515団体から現在は600団体を超えるまでに育成した。この数は日本全体の8分の1を占め、全国で圧倒的1位である。その成果もあり、刑法犯認知件数は平成30年度に6万1件となり、約30年前の水準に戻すことができた。刑法犯全体としては約1／3減少だが、実は民間防犯パトロールが一番の抑止力になるといわれる住宅窃盗認知件数は84・3%減で、けたはずれに成果を出している。

次に「赤字が苦にならない」で

ある。公務員は争議権が制約されおり、給与・賞与等について人事委員会などの勧告によって事実上決定される。従つて、県庁や第三セクターなど県の関係機関の

まじいいろ国体開会式での挨拶

日本一の地芝居の町小鹿野歌舞伎の指導を受ける



・米国中西部会フレデリーカ・スニス
フェデエクス会長兼社長との会談



NHK朝ドラ「つばさ」の主人公、多部未華子さんと



上田県政の推進力の一つは知事室に張り出されたグラフ・データの数々





毎日新聞主催のフォーラムで
講演、知事就任以来講演は
400回以上を超える

上田きよしと鈴木やすとも浜松市長が共同代表の「先進自治研究会」
勉強会・忘年会、全国のメンバー市長と二階俊博自民党幹事長

職員についても給与などは保証されている。そのため黒字化へのインセンティブが弱い。さらに言えば利益を上げたいとか営業活動が好きな人はそもそも公務員を希望しない。そこで埼玉高速鉄道などの第三セクターの社長には民間人を招聘し経営改善を断行した。その結果、大赤字だった県の出資法人は、今ではほぼ黒字化している。例えば、埼玉高速鉄道には1,533億円あつた借入金が、現在では469億円までに減少し、経常利益も黒字化している。さいたまスーパーアリーナも最初は県が赤字を補てんしていたが、今では黒字化し、逆に県に納付金を納めるまでになった。これまで累計83億円を県に納付した上で更に株主への配当も行っている。埼玉県とさいたま市の共同経営である浦和競馬組合は、私が知事就任時に23億円の累積赤字があった。管理者である私は職員に公営競技の本質について話をした。「競馬は賭博であり行為であり刑法185条の適用を受ける。適用除外になつていいのは利益を教育、福祉、インフラ整備など公益のために使うからだ。何年も赤字であれば全員『牢屋』に行かねばならない」と。職員は目が覚めたようで、その後は5年で赤字を解消した。いまでは県と市に26億円も納付し、大幅に黒字を達成している。

こうした姿勢を埼玉県のマインドとして根付かせ、成果を求め、

職員についても給与などは保証されている。そのため黒字化へのインセンティブが弱い。さらに言えば利益を上げたいとか営業活動が好きな人はそもそも公務員を希望しない。そこで埼玉高速鉄道などの第三セクターの社長には民間人を招聘し経営改善を断行した。その結果、大赤字だった県の出資法人は、今ではほぼ黒字化している。例えば、埼玉高速鉄道には1,533億円あつた借入金が、現在では469億円までに減少し、経常利益も黒字化している。さいたまスーパーアリーナも最初は県が赤字を補てんしていたが、今では黒字化し、逆に県に納付金を納めるまでになった。これまで累計83億円を県に納付した上で更に株主への配当も行っている。埼玉県とさいたま市の共同経営である浦和競馬組合は、私が知事就任時に23億円の累積赤字があった。管理者である私は職員に公営競技の本質について話をした。「競馬は賭博であり行為であり刑法185条の適用を受ける。適用除外になつていいのは利益を教育、福祉、インフラ整備など公益のために使うからだ。何年も赤字であれば全員『牢屋』に行かねばならない」と。職員は目が覚めたようで、その後は5年で赤字を解消した。いまでは県と市に26億円も納付し、大幅に黒字を達成している。

国は大きすぎて「カジ」を切るのが困難だが、地方は比較的「カジ」が切りやすい。地方から国を変えてゆくしかない。優れた地方モデルを横展開することが、日本を変える近道と思う。

実際、生活保護の子ども達の1/4がまた生活保護になるという負の連鎖が起こっていた。その子ども達が高校に入学していないこと、入学しても卒業していないことに着目し、県の政策として生活保護の子ども達に教育支援（一種の寺子屋）を行うことで高校への進学や卒業を実現した。この埼玉県の政策は国会でも注目され、「生活困窮者自立支援法」になり、全都道府県で埼玉モデルが展開されている。

2019年10月 参議院補欠選挙



浦和駅西口で出陣式

メインゲストに、お馴染みの平沢勝栄衆議院議員、原口一博衆議院議員、河村たかし名古屋市長を迎え、野田佳彦前首相、岡田克也元外相をはじめ多くの衆参の国会議員、地方議員、首長が駆けつけました。

上田きよしも、約500名の参加者に国政と県政との懸け橋になること、国政の課題について熱心に訴えました。



▲有権者でない
子どもの質問
にもしっかりと
対応



▶10月15日
身を乗り出すいつも通りのスタイル



◀10月27日 午後8時、時報と共に当確



▼10月26日 最終日打上式に大宮駅東口
500名超の支援者



中央は、菅原文仁戸田市長

令和元年 10/27 投票率 20.81%	
上田 きよし (無所属)	1,065,390 得票率 [86.4%]
立花 孝志 (N国)	168,289 得票率 [13.6%]

◀10月19日 左から長島昭久衆議院議員、上田きよし、大野元裕埼玉県知事、松沢成文参議院議員(前神奈川県知事)、

新年総会のご案内

四市清友会

とき 令和2年2月11日(火・祝)
☆開場 12:30 開会 13:00

ところ ベルセゾン

新座市東北2-27-14

TEL.048-475-1122

会費 3,000円

主催 清友会

朝霞市東弁財3-13-6-207 TEL.048-466-7566

○現在、参議院議員。

○昭和23年九州福岡県生まれ。
○法政大学法学部卒、早稲田大学大学院政治学研究科修了。
○新自由クラブ立党に参画、同党政策委員、全国青年局長。政策科学研究所政策委員。1980年新自由クラブより衆議院議員選挙出馬。期初は小選挙区選出300人中、議員立法4連敗するが不屈の闘志で5度目の1993年初当選、以後3期連続当選。衆議院議員2期目は小選挙区選出300人中、議員立法質疑回数1位。3期目選挙直前、小泉純一郎(当時、総理)をして「俺は誰が相手でも勝つ自信はあるが、上田清司だけはご免こうむる」といわしめた。「選挙の鉄人」という異名もある。また、平成15年2月、塩ジイこと塩川大臣の「母屋でお粥をすすっていたが、離れてスキヤキを食べていた」という特別会計の例えは、上田清司代議士の質疑に共感して答弁した有名なセリフである。
○平成15年8月、民主党を離党し、無所属で知事選に出馬、2位に約ダブルスコアで当選。
○平成19年、23年、27年と4期連続当選。
○この間、総務省顧問、拓殖大学大学院客員教授、内閣地域主権戦略会議委員、全国知事会東日本大震災復興協力本部長、全国知事会会長など歴任。